

令和2年4月22日
ぐんまみらい信用組合

第13回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議」を設置しております。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第13回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第14回会議は、令和元年度決算状況を踏まえて令和2年8月頃に開催する予定にしております。

記

1. 日時

令和2年2月17日(月) 午前10時55分～午後0時30分

2. 場所

ホテルサンダーソン 2階 会議室

3. 出席者

(経営諮問委員) <五十音順、敬称略>

石綿 和夫 (高崎商工会議所 専務理事)

小林 優公 (弁護士)

樋口 努 (群馬県商工会連合会 専務理事)

向田 忠正 (公益財団法人 群馬県産業支援機構 理事長)

矢野 修一 (公立大学法人 高崎経済大学 経済学部教授)

(ぐんまみらい信用組合)

八高 武 (理事長)

小野 和茂 (専務理事)

大野 米雄 (常勤理事)

新井 伸章 (常勤理事)

多胡 忠浩 (常勤理事)

羽石 良夫 (常勤監事)

4. 八高理事長挨拶

本日は公私共にお忙しい中、第13回の経営諮問委員会にご出席を賜り誠に有難うございます。委員の皆様方におきましては、当組合の運営に対して、引き続きご助言・ご提案を頂ければと思っております。

今年、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えております。群馬県に於きましても、Gメッセ・群馬コンベンションセンターのオープンを4月に控えまして、群馬観光キャンペーンである群馬デスティネーションキャンペーンが開催されます。更には、今年度スバルの増産が計画されている等、群馬県内の経済に大きく影響するのではないかと私共も期待をしている所です。

しかしながら、最近になりまして、新型コロナウイルスによる肺炎が発生しており、早急な鎮静化を望むと同時に経済に影響のないことを期待しております。

さて、当組合は第三期3ヵ年経営強化計画の2年目に入り、最終年度である令和2年度の計画達成に向け、新年度以降スタートダッシュが出来るよう、役職員が共通認識を醸成し取り組みしております。

事業承継の問題解決や次世代への支援、更には、景気減速が叫ばれている中に於いて、金融支援・経営相談等のサポートが信用組合のリレバンであり、金融仲介機能の発揮であると判断しております。今日まで県内の4商工会と連携協定を締結しており、今年3月までに5例目の締結に向け準備をしいる所です。

これからも当組合は、お客様との信頼を構築し、経営改善等コンサル業務や、定量面以外の目利き力を活かした定性面の推進により、金利競争に巻き込まれない対応を推し進め、経営強化計画達成に向け、役職員一丸となって取り組みますので、今後ご指導ご鞭撻をお願いし挨拶と致します。本日は、よろしくお願い致します。

5. 当組合からの説明要旨

当組合より以下の内容について説明いたしました。

- ① 令和元年9月末仮決算の状況について
- ② 第3期経営強化計画の進捗状況について
- ③ 第12回経営諮問会議のご意見・ご提言の取組状況について

6. 意見交換

出席者から以下のご意見、ご提言を頂きました。

- ・経費削減等で収益を上げている状況で、人員を削減すればそれだけマンパワーが不足する。対外的な収益獲得の機会が減るということで、従業員に対する負担が増してくるのではないかと思います。従業員の負担が無いようにして頂きたいと思う。
- ・2019年4月に労働関係の法律が改正となり、2022年4月からパワハラ対策を実施していくことが法律上で義務付けられました。企業内で方針定め、実施・徹底していくと同時に相談体制を整える。更に、問題が発生した時に適切に対応する必要がありますので、対応策について取組んで頂きたいと思う。
- ・2020年4月から民法の債権法が改正になります。事業資金についての保証、根保証についての取扱いが非常に厳しくなっています。保証人による保証意思の確認を金融機関に求められることとなりますので、準備態勢、周知徹底が必要かと思う。
- ・安全第一というので、有価証券については配慮しながら運用している様ですので、運用については、引き続き配慮して頂きたいと思う。
- ・地域金融機関として生きていくには、特に信用組合の場合は、地域密着・組合金融、そ

れを深堀していくしかないのだと思う。県内4つの商工会と連携協定を結んで頂いて、非常に助かっている。青年部との連携が上手く出来ていて、組合の事業にも協力頂いている。青年部のセミナーや集会、勉強会にも積極的に参加をして頂いて、それが非常に役立っている。更に融資に結びついている事例もあり、非常に上手い形で進んでいると思う。是非こういう良い事例を展開して、信用組合が力を入れていく、生きていく道なのかなと感じるので、是非頑張って頂きたいと思う。

- ・直近厳しい事業会社への支援が必要であるのと、長期的・中長期的には、サプライチェーン見直しの中で、元気が良さそうな所には、積極的に打って出ていくという姿勢も必要ではないのかなと思う。苦しい人だけでなく、新しいビジネスチャンスを生み出す、中小企業の皆さんもいるかもしれませんので、両面で状況を見ながら、対応して頂けるといいのかなと思う。

以 上